



# 人がいなくなった街

本誌に毎月ご執筆いただいている元戦場カメラマンの石川文洋さんや仲間たちと、カンボジアに行ってきた。プノンペンもアンコールワットも多くの人で賑わっていました。アンコールワットの柱には銃弾の跡が無数にあり驚きました。1979年ポル・ポト政権時代強制移住させられプノンペンは無人の街となったそうです。無人の首都を想像できるでしょうか。

政治犯が拷問を受けて処刑された刑務所であったトゥールスレン博物館、ひびが入ったり、穴があいている頭骸骨が山と積み上げられているキリングフィールド。多くの民間人が虐殺されました。私は過呼吸を起こしそうでしたが、目を見開きしっかり見なければ、と自分に言い聞かせました。

安倍政権は秘密保護法、戦争法、共謀罪法を数の力で押し切りました。2018年度の防衛予算は、5兆1911億円となり、2012年度以降増加の一途をたどっています。購入する戦闘機、護衛艦、戦車等をみると、攻撃する能力を備えたものとなっています。辺野古・高江では新基地建設反対に耳をかさず工事を強行しているのです。イラク・南スーダン派遣の日報隠蔽、財務省の改ざん、厚労省の不適切データなど、信じられません。民主主義の根幹が揺らいでいます。

憲法に自衛隊を明記させてはなりません。どんな理由であれ、人のいない街をつくるわけにはいかないのです。人間が大切にされ、生き生きと活躍できるように、あきらめず不断の努力で平和を勝ち取りましょう。

労働大学企画編集委員 荒畑 正子